



1

❶北側上空から見た長者ヶ原廃寺跡。築地塀の中軸線を真つすぐ南に延ばすと、関山の頂上にぶつかる。長者ヶ原廃寺跡が寺院として機能していたころは、この山に「衣関」が置かれていた。本堂や南門に立つと真つ先に関山が目に入ったことだろう



2



3

❷真上から見た長者ヶ原廃寺跡。四角のうち、中央は本堂跡、左は塔跡と推定される建物跡、下は南門跡。周囲の点線は築地塀跡で、塀の外側には溝跡が巡っている

❸長者ヶ原廃寺跡から出土した11世紀初めごろの土器。長者ヶ原廃寺跡では遺物がほとんど出土しないが、まとめて穴に捨てられていた、これらの土器が偶然発見されたことにより、遺跡の年代が確定した



奥州遺産

— ときを越え 受け継がれるもの —

第114回

長者ヶ原廃寺跡

(国指定史跡)

Ⅱ衣川田中西Ⅱ

長者ヶ原廃寺跡は、関山中尊寺から北に1きほどいった、田園風景が広がる場所にある。地元では、源義経を平泉へ連れてきた商人「金売吉次」の屋敷跡であると伝えられてきた。しかし昭和24年からの考古学的な調査により、築地塀と本堂、塔と推定される建物、南門を備えた10世紀後半から11世紀の寺院跡であることが明らかにになっている。

一体どんな寺院だったのだろうか。寺院の中軸線は、中尊寺がある関山山頂に向かつており、造営当初から関山を意識して設計されたことがうかがえる。長者ヶ原廃寺跡が機能していた当時の関山には「衣関」という関所が置かれていたことから、長者ヶ原廃寺跡は「衣関」に係する寺院とも考えられる。

南北境界の地であった「衣関」の跡地には、後に藤原清衡が、浄土・平泉の基点として中尊寺を建立する。長者ヶ原廃寺跡は、中尊寺が関山に置かれた意味を今に語り継いでいるのかもしれない。

広告

●広告の問い合わせは、㈱東広社（☎ 0197-64-1523）